

# りんご研究所 ニュース



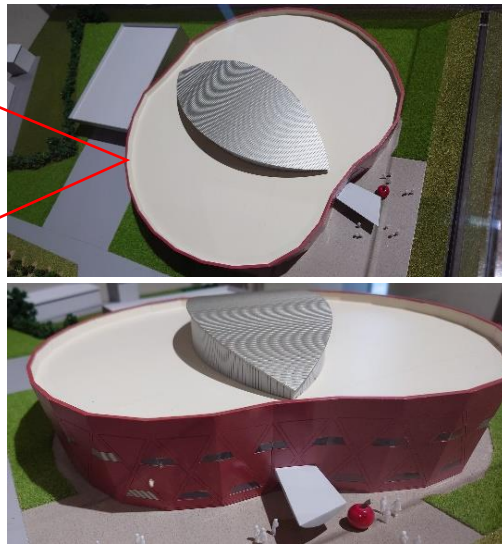
No. 105  
2025. 1. 28

## りんご植栽一五〇周年記念

### キックオフイベント！

令和七年は、青森県にりんごが植栽されて一五〇周年の記念すべき年です。本年は、この一月二五日に青森市の県観光物産館アスパムにおいて開催されたキックオフイベントに続き、各所でさまざまなイベントが開催されます。このキックオフイベントでは、最初のオープニングセレモニーとして、宮下知事のあいさつや一五〇周年事業実行委員長である内山県りんご協会長によるキックオフ宣言の後は、アンバサダーである王林さん、ジョンナゴールドさん、りんご娘の皆さんが、りんご王座決定戦やミニライブ、りんご農家とのミニトークショーで花を添えたほか、りんごに関わる「食べる」、「体験する」、「見る」、「楽しむ」の各コーナーも開催され、数百人の方が楽しまれました。

## りんご研究所の新庁舎現わる！



また、オープニングセレモニーにおいては、待ちに待った当研究所新庁舎のデザインが公表されました。縦割りのりんごをモチーフに、空から見てもりんご研究所だと分かる斬新な形になっています。見てものとおおり、ちよつと扁平果です。合わせて、知事から機能を強化した新たなりんご研究所が担う五つのミッションが発表されました。

ミッションは、一・新品種の開発、二・品質向上技術の高度化、三・高温対応技術の開発、四・青森型高密度植栽の確立、五・生産者・企業等との連携強化になります。発表を受け、県産業技術センター坂田理事長から「二〇〇年、三〇〇年先でもりんご王国であり続けるよう、職員一丸で取り組みます。」との表明がありました。

## 一五〇周年記念

### ロゴマークの使用について

ロゴマークは、使用を希望する自治体、関係団体、民間企業等が実施する関連企画やサービス、商品等に幅広く御活用いただけます。左記のロゴマークの他に数種類あります。

使用を希望する方は、県りんご果樹課（TEL〇一七七一三二四九四八九）に相談してください。



150th Anniversary of Apple planting in Aomori

# 150

## イタリア南チロルの

### りんご生産事情！（続き）

前号において、南チロルのりんご栽培ではさまざまな機械を導入していることをお知らせしました。今号では樹形・仕立て方を中心に紹介します。大半は本県でも導入されているトールスピンドル樹形が占めていましたが、より機械化に適した樹形は横に枝が張り出さず、主幹がまっすぐに伸びたものがよいとして、最近では一本の樹から主軸となる枝を二本伸ばす方法（英語ではパイアキシス、イタリア語でパイ



パイアキシス樹形



パイアキシス樹形の分枝部

バームと呼称)や樹勢の強い「ふじ」などでは、マルチリーダー樹形も試されています。パイアキス樹形は苗木を二芽に切り詰めるのではなく、最初から二本に分枝した苗木を購入することです。台木はM・9T337などを使用し、台木長は40cmでそのうち地上に10cm程度を出すとされています。植栽距離は「ふじ」が1m、その他は80cmで、「ふじ」は樹勢が強いことから、一本仕立てより間隔広めのパイアキスが樹勢が落ち着いて管理しやすいとのことです。試行的な面が強いマルチリーダー樹形は、使用する台木や植え付け方はパイアキス樹形とほぼ同様ですが、二本に分枝した枝を交差させ、水平状態に誘引し、そこから発出した枝(リーダー)を直上に伸ばし、カーテン上に仕立てる樹形です。リーダーは何本がよいかなどの試験が行なわれています。この樹形は雪が少なく環境もあって、個々の樹、リーダーごとに支柱を建てることはせず、ぶどうの垣根仕立てのように架線を五本張り

枝をゴムバンドで固定しています。防電網が必須なため、がっちりした隅柱や中柱を設置していることから可能な仕立て方だと思われすが、資材費が高騰し、生産性の向上が求められる中、どのやり方が適当なのか、検討する余地があると思います。さらに、マルチリーダー樹形で



マルチリーダー樹形の分枝・交差部



マルチリーダー樹形

他にも紹介したいことが山ほどあります。詳しく知りたい方は、二月十三日(木)十時から藤崎町文化センターで「りんご高密度栽培推進セミナー」イタリア南チロルに学ぶ高密度栽培の取組」が開催されます。午後には当研究所の試験成果・情報発表会(津軽会場)も開催します(県南会場は二月一八日(火)に南部町立楽楽ホールにて)。ぜひお越し下さい。



架線とゴムバンド

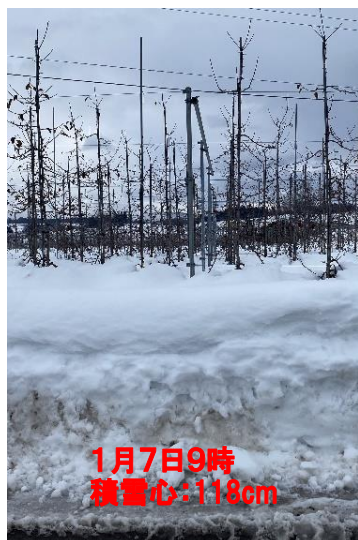


防電網と隅柱、中柱

は二条植えにするなど、壁上に整枝する特性を活かし、条間には配枝せずに空間を有効に使う試験が行なわれていました。着色や作業性など気になるところが多々あるので、早く試験結果を知りたいところです。

### りんご研の高密度栽培と大雪

りんご研究所では、平成二十六年から高密度栽培の試験研究を始め、十年が経過しました。この間、若木における生産性や着果基準、側枝の発出方法などを明らかにしました。しかし、本県で最も重視すべき耐雪性については、近年、少雪傾向であったため、調査できずにいました。今冬の豪雪により、県内各地で雪害が発生し、さまざまな対策が講じられています。当研究所でも一月三日に現時点における今冬の最大積雪深一五九cmを記録しました。この機会を活かし、高密度栽培の確立に向け、耐雪性について詳細に調査し、対策を含めた結果を取りまとめ、お知らせする予定としています。



1月7日9時  
積雪心:118cm

### 編集後記

本年は、りんご植栽一五〇周年の記念すべき年であり、豪雪から始まった年でもあります。何が起きるか分からないりんご栽培に安心して取り組めるよう、職員一丸でがんばります。(R)